

細谷小 150 周年記念行事 第 2 弾 「細谷いのちのプロジェクト」

6 月 18 日は豊橋学校いのちの日でした。

本校では、同日に「細谷いのちのプロジェクト」として、集会といのちに関する授業の参観を行いました。集会では、12 年前のこの日に学校行事中の事故により尊い命を失った西野花菜さんのご冥福を祈り、黙とうを捧げたあと、校長からいのちに関する講話がありました。そして、校区の網元である藤田陽平さんをお迎えし、海の恵み（いのち）をいただいて生業とする地引網漁についてお話をしていただきました。



※スライドを使って、説明していただきました。 ※網や櫓など、実物もたくさん用意していただき、長い櫓を使って漕ぐ様子を実演していただきました。

※子どもたちも体験させていただきました。



この長い竿の道具を海中に突き立てるように入れ、貝もたくさん採ったのだそうです。



地引網漁は、細谷の地で古くから盛んに行われていたこと、山の方から海の様子（魚の群れ）を見て手旗で信号を送り、そこへ船を進めて漁をしたことなど、さまざまなことを教えていただきました。

海に繰り出す様子の写真です。

船はほぼ垂直に立ち上がり、大迫力です。勇ましい漁師さんたちの姿がスライドで紹介されると、子どもたちは息をのんで見入っていました。

昔は、大漁の際に老若男女みんなで浜に集まって網を引き、仲よく分け合ったそうです。それでも余った魚貝類は浜辺でそのまま乾燥させ、田畑の肥料にしたということです。その肥料を求めて、他の地区から細谷へ買いに来る農家の人たちも多かったとか。



昭和 40 年代に土地改良事業が始まり、豊川用水が引かれると、細谷の産業は農業中心となり、地引網漁をする網元さんは減っていきましたが、観光目的としての地引網漁が行われるようになりました。そして、昭和 50 年頃からは、網元さんたちのお声がけもあり、細谷小の子どもたちが学校行事として地引網漁の体験をさせていただくようになったそうです。現在の保護者の皆様の中にも、小学校時代に体験したという方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

下の 2 枚の写真は、平成 26 年頃の様子です。たくさん魚が採れていますね。みんなで網を引き、収穫を分け合うという体験は、当時の細谷っ子にとって、とてもよい学びになったことでしょう。

地引網漁は、天候に左右されるため、思うように体験活動を実施することが難しいそうです。

近年は、そのために地引網漁をあきらめ、海岸でのたてわり活動などを行う年が続いていました。



ですが、今回の集会のように、機会を捉えて地域の方々に学校の教育活動にかかわっていただき、今後も「ふるさと細谷」への関心や愛着を高めていけるようにしていきたいと思えます。

令和元年度末より世界全体に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症により、観光事業としての地引網漁も実施できない状態が続いています。

保護者からの要望も多いこの体験活動に対し、今年度は実施を検討し、網元さんたちのご意見を伺いました。その結果、依然として感染症対策が必要であることや天候による影響のほか、網元さんたちの高齢化が進んでいることなどから、今後の実施は難しいという結論に達しました。

時代の流れとともに、こうした地域の伝統を体験から学ぶ機会がなくなってしまうことはとても残念